

週刊 鋼構造ジャーナル

2020
3/30 NO. 1972

週刊(毎週月曜日発行)／購読料・1カ年49,500円、6カ月27,000円(税・送料とも)／昭和55年9月26日第三種郵便物認可／発行所・株式会社 鋼構造出版／発行人・田中賢士 編集人・大熊稔／本社・東京都中央区日本橋茅場町2-2-2 三惠ビル5階 〒103-0025 電話 東京03(5642)7011(代表) F A X 03(5642)7077 /大阪支社・大阪市西区西本町1-14-3 本町コスモビル 〒550-0005 電話06(6536)2601(代表) F A X 06(6536)7603 /札幌支局・札幌市白石区北郷4条3丁目2-21 〒003-0834 電話011(879)7666 F A X 011(873)3636 /振込銀行口座・みずほ銀行京橋支店024-1044873 /郵便振替口座 東京00130-9-13713

おもな記事

- 来年度事業計画・予算など書面決議／全国鐵構工業協会 (2面)
- 日形鋼は統落の7万9千円／物調3月資材価格調査… (5面)
- 6月7日に全国6カ所で開催／溶接管理技術者評価試験 (6面)
- 高力ボルトの需給ひっ迫は収束へ／国交省3月調査… (7面)
- 事業継続計画早わかり②／感染症に対するBCP… (8面)

- 鉄骨技術フォーラム2019／質疑と回答・連載 (12面)
- 「対策実施」企業は74・1%／新型コロナ緊急アンケート (13面)
- ジャーナルなるインタビュー／日鉄ポルテン・中村浩之取締役 (14面)
- 日クレード工場ルポ／ユーホク (秋田県) … (15面)
- 関東版… (20面) ● 中部版… (21面)

32ページ



景況見通しについて情報交換

先行きへの不安感増す 足元の景況感など情報交換

全構協・近畿支部

「ホテルの見積もり件数が減った」「足元の仕事は確保しているが、新規案件の見通しが立たなくなってきた」「今後の報告が大半を占め、今後の仕事量への懸念が増していることが明らかになった。さらに、「先月より受注価格が下降傾向にあると感じる」と、仕事量の減少による受注単価の軟化を危惧する声も聞かれた。

全国鐵構工業協会の近畿支部(支部長 伊藤佳治・ナガオカ社長)は24日、兵庫県淡路市の淡路インターナショナルホテル・ザ・サンプラザで例会を開き、足元の景況感について情報を交換。その結果、新型コロナウイルスの影響に対し、目を追うごとに先行きへの不安感が増していることが明らかとなった。

近畿2府4県の景況報告では年明け以降、仕事量の減少とともに稼働率が低下している中、3月に入って新型コロナウイルスの感染が拡大し、

伊藤支部長は「見積りもりの減少や単価の下降など、先行きへの不安感が高まっている。適正単価を維持して下落を阻止するためにも、残業を抑制するなど働き方改革を推進していくことが各社の手持ち工事量の平準化を促すことにつながる。」「今が踏ん張りどころ」と認識し、業界で団結していかなくてはならない」と述べた。

このほか、全国鐵構工業協会が定めた「働き方改革」実施に向けた統一目標を近畿地方整備局などに通知し、理解を求めたことを報告した。